

岡山農場

水田部

昭和61年度運営は、3号田でこれまでの直播栽培を、ポット式移植栽培に変更した以外は前年度と同じであった。本年度の水稲作は、天候に恵まれ、襲来した台風もなかったため、岡山県の平均収量は作況指数105、10a当たり収量489kgと「やや良」の豊作であった。岡山農場水田部においても、2号田の474kg/10aを除

き、506~545kg/10aと顕著に高い収量であった。2号田においては、水管理が根の発達におよぼす影響に関する試験を実施し、生育初期に長期にわたり乾田状態におかれた。そのため初期の生育が遅れたうえ、サンプリングによって、穂数が減少するなどが原因で大巾な減収となった。(第4表参照)

第1表 栽培面積 (61年度)

作物	品 種	試 験 内 容	圃 場	面積(a)
水稲	コガネマサリ	成苗移植栽培(生産性向上試験)	1号田	61
”	コガネマサリ	直播栽培(生産性向上試験)	2号田	64
”	アケボノ	ポット育苗移植栽培(ケイ酸質肥料試験)	3号田	38
”	アケボノ	ポット育苗移植栽培(生産性向上試験)	第2農場	13
”	アケボノ	ポット育苗移植栽培(生産性向上試験)	第2農場	10
”	アケボノ	ポット育苗移植栽培(生産性向上試験)	第2農場	12

計 198

第2表 栽培の概要

作物	圃 場	品 種	様 式	播種期	播 種 量 kg/10a	施肥量 kg/10a			収 穫 期
						N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
水稲	1号田	コガネマサリ	移植	5月21日	2.5	14.7	11.1	15.7	10月23日~ 28日
”	2号田	コガネマサリ	直播	5月13日	6.0	14.4	10.5	15.5	10月13日~ 20日
”	3号田	アケボノ	移植	5月21日	2.0	12.6	8.5	13.7	11月4日~ 6日
”	第2農場	アケボノ	移植	5月21日	2.0	14.7	11.1	15.7	11月7日
”	第2農場	アケボノ	移植	5月21日	2.0	14.7	11.1	15.7	11月6日
”	第2農場	アケボノ	移植	5月21日	2.0	14.7	11.1	15.7	11月11日

第3表 水稲防除作業内容

処 理 薬 剤 名	1. 3号田第2農場移植		2号田直播	
	使用量/10a	月 日	使用量/10a	月 日
除 草 剤	サターン乳剤		1000 ml	5月16日
	DCPA乳剤		750 ml	5月28日
	DCPA乳剤		650 ml	6月10日
	サターン粒剤		3.5 kg	6月30日
	アピロサン粒剤	3 kg	7月4日	
殺虫, 殺菌剤	ダイシストン粒剤		6 kg	5月28日
	アルフェート粒剤	3 kg	7月8日	3 kg 7月9日
	バリダシン粉剤	4 kg	8月7日	4 kg 8月7日
	レルダンアプロードDL粉剤	3.5 kg	8月18日	
	ヒノバイマクDL粉剤	3.5 kg	9月1日	3 kg 8月18日
	レルダンアプロードDL粉剤			4 kg 8月21日
	ヒノバイマクDL粉剤	3.5 kg	9月5日	3.5 kg 9月1日

第4表 圃場別水稲収量

品 種	圃 場	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)
コガネマサリ	1号田	536	48
コガネマサリ	2号田	474	29
アケボノ	3号田	545	20
アケボノ	第2農場	506	28
アケボノ	第2農場	506	28
アケボノ	第2農場	506	28

果 樹 部

昭和61年度も前年に続きマスカット以外はその果樹も生育、着色とも良好であった。マスカットは着果不良の上に縮果が多発し大幅な減収となり、進物用の箱詰めにできる果房はほとんどなかった。

1号モモ園：収穫量は昨年度が3,580 kgであったのに対し、本年度は3,530 kgで、ほぼ同等であった。ただし、矮化台樹はますます生育不揃いとなったため、収穫後に伐倒した。

1号カキ園：生育がほぼ回復し、収量は1,410 kgとなり、昨年 of 不作を取り戻すほどの豊作であった。

2号モモ園：昨年度が1,050 kgに対し、本年度は1,260 kgの収量となり、樹はほぼ順調な発育を示した。しかし、最初に定植した山陽水蜜桃樹の中には白紋羽病や接ぎ木不親和と思われる原因により枯死するものが現れた。また、八幡白鳳は昨年に続いてほとんどの果実が裂果した。果実発育の第Ⅲ期開始時が梅雨に当たるこの品種では袋掛けが必要であろう。

2号リングゴ園：昨年度末の降雪で主幹上部が折損し、特にジョナゴールドの収量が大きく低下した。それにも関わらず結実は良好で、後期

落果の開始直後から収穫し始めたため総収量は1,596 kgと大幅に増加した。

3号キャンベル園：果粒発育はほぼ順調であったが、整房および摘粒が過度であったために収量はやや減少し2,948 kgであった。また、摘粒用のジベレリン処理により果軸が異常に曲がった。

4号園：ベリーAでボトリチスによると思われる房の枯れ込みが発生した。収量は巨峰；1,023 kg、スーパー；838 kg、ベリーA；1,924 kg、ヒロハン；1,466 kg、ピオーネ；47 kg、紅富士；90 kgであった。

温室：大温室は果房の着生が悪く、しかも縮果が多発したため大幅な減収であった。空調室は例年並みの作況であった。収量は大温室；617 kg、空調室；212 kg、地中室；90 kg、養水分室；49 kgであった。

果樹見本園：ウメは137 kgの収穫があったが、ユズはアカダニの発生により収穫できなかった。西洋ナシは追熟の実験に使用された。また薬剤散布がほとんど行なわれていないので輪紋病とヒメシクイ虫が多発した。

そ 菜 ・ 花 き 部

昭和61年度におけるそ菜・花き部の栽培作目、収量などは第1表に示した通りであった。

前年度はタマネギが不時抽だいによって減収となったため、本年度は固定品種に代えて一代交配品種を用い、適期播種に留意した。そのため抽だいもほとんど見られず生育も斉一で5.1t/10aの収量をあげることができた。ハクサイはこの数年来軟腐病の多発に悩まされているため本年度は面積を半減し、チンゲンサイ、パクチョイなどの中国野菜を増やした。幸い、消費者にも好評で予定通りの収益となったが収穫調整にやや多くの労力を要した。

本年度は新しい試みとして台湾で広く栽培されている生食用サトウキビの試験栽培を行った。

催芽処理によって初期生育を促し、生育期間の延長をはかったが積算温度の不足のためか節間が伸びず、栽培の実用化は困難のように判断された。

カーネーションは前年度に引続いてMediterranean Hybridを中心に24品種を導入し、生産性や切花品質などを調査した。一応の結果が得られたのでとりまとめて本号に発表した。

61年度の販売収入は約324万円で、前年度をわずかながら上回った。その収入構成は夏作の果菜51.6%、根菜25.3%、秋作の葉菜11.5%、施設花き11.5%の比率であった。

第1表 昭和61年度そ菜・花き耕種概要

作 目	品 種	圃 場	面積(a)	収量(kg)	売払金額(円)
トマト	強力米寿	南2号	8.0	3183.1	540,215
キュウリ	夏秋節成	〃	4.3	3135.6	485,575
ナス	長 者	〃	3.5	2070.5	497,100
スイカ	美縞2号	〃	4.5	1469.3	146,930
サトイモ	えぐいも	南1号	10.0	1314.9	386,970
ハクサイ	耐病60日	〃	5.0	1294.0	94,400
中国野菜・他	—	〃	10.0	3692.9	277,510
ラッキョウ	—	〃	2.0	133.0	26,600
タマネギ	OP黄・他	〃	15.0	7656.5	405,330
サトウキビ	—	〃	1.0	23本	1,150
キク	秀芳の心・他	ハウス	250.0 m ²	7308	246,670
カスミソウ	ブリストルフェアリー	温 室	90.0	776	27,000
カーネーション	シネラ・他		90.0	2999	99,710

畑 作 セ ン タ ー

第1表に昭和61年度作物別耕種概要を示した。ほとんどの作目とも著しい増産となり、収入面においてもこれまでを大きく上回った。作目の多様化と増収の結果であるが、これまでの技術面での蓄積と地道な圃場整備によるところが大きい。

春作バレイショの生産量は5tを越え、畑作センターの発足（昭和54年）以降の最大となった。収量も史上最高であった。除草剤と中耕除草の組合せによる管理の合理化と、トラクター装着リジジャーによる堀取りの省力化にも実績を残した。男爵イモ・セトユタカ（西3号）では排水不良による中耕作業の遅れと初期生育不良が認められ、排水対策の重要性が痛感された。

秋作バレイショも史上最大の生産量になったが、生産収入は昭和59年に次ぐ結果となった。収量に改善の余地があったのと当時の販売単価（平均241円/kg）が維持できなかったためである。単価の引き上げを期待しないと一層の増収を目指す必要がある。いずれにしても春作・秋作バレイショのみで収入のほぼ1/3を占め、基幹作目であることはまちがいない。

カボチャはほぼ例年なみの生産であった。収量的には低迷を続けているが、労力の投入を増やさない方向での増収対策と販売の見地から類似作目への一部転換を模索している。

スイートコーンは栽培の省力化は確立したが、灌水と収穫の適期をはずした区が一部あり、改善の余地がある。クロガネコーン（在来モチトウモロコシ）、ポップコーン、ヤングコーンは

販売品目の多様化をねらいとした。

カンショは連作6年目の圃場で品質は良好ながら作柄はかなり低下してきた。例年通り幼稚園児のイモ堀りの需要が多かった。

枝豆も着実に生産量が増加した。「エダマメ」品種でないタマホマレは食味良好で収量も高く、中・晩生品種による枝豆栽培の本格化に自信を得た。

カンランも例年通りの生産をあげたが、収穫後半の販売がやや低迷し、販路に苦慮した。今後は品種の多様化などの工夫が必要である。

ハボタンは移植用プラスチックポットにに入れて販売したため需要が伸び、例年以上の収入を示した。

ホウレンソウは昭和59年の試作以来順調に生産量が増加しており、将来とも有望作目と思われる。作業体系、とくに播種作業の省力化が課題として残った。

ダイコンは史上最高の生産量を示したが、カブは販売単価が低迷し収入面では改善の余地がある。両作物とも作期の多様化によって販売数量と単価の維持を目標にしたい。

シュンギクも例年以上の生産をあげたが、播種・収穫作業などを改善すればさらに増産も可能と思われた。

飼料作も順調に生産をあげた。

基盤整備にも力点を置き、レベルが低く排水不良の南5号圃場に暗渠を敷設し排水ポンプを設置した。一部には盛土も行なったが、盛土の必要な圃場は多く残されている。

第1表 昭和61年度作物別耕種概要（A）

番号	作 目	圃 場	面 積 a	品 種	生産量 kg	収 量 kg / 10 a	栽植密度 株 / a	畦幅 cm	株間 cm
1	バレイショ（春作）	西3 西4	20	男爵イモ セトユタカ メークイン デジマ	5372	2686	400	100	25
2	バレイショ（秋作）	南3	11.2	セトユタカ デジマ	1761	1572	400	100	25
3	カボチャ	南3	10	近成えびす	1136	1136	12.5	400	200
4	トウモロコシ（未熟A）	西1	17.7	アストロバンタム	3244本	1832本	250	100	40
5	トウモロコシ（未熟B）	西2	0.8	クロガネコーン	816本	10200本	250	100	40
6	トウモロコシ（ポップコーン）	西2	0.8	（在来）	144	1800	250	100	40
7	トウモロコシ（ヤングコーン）	西2	-	バイオニア	1070	-	444	90	25
8	カンショ	西3	12	高系14号	3906	3255	401	83	30
9	ダイズ（枝豆A）	西5	6	サツポロミドリ	568束	946束	833	85	15
10	ダイズ（枝豆B）	西5	2	タマホマレ	427束	2135束	833	85	15
11	ダイズ（枝豆C）	西5	0.6	丹波黒	126束	2100束	833	85	15
12	ダイズ（子実黒豆）	西5	1.4	丹波黒	28.5	203	803	83	15
13	シソ	西5	1.8	-	293束	1627束	-	150	-
14	アスバラガス	西5	0.2	-	26.8	-	-	100	-
15	カンラン（A早生）	西5	7	早秋カンラン	3502	5003	333	120	25
16	カンラン（B晩生）	西5	13	うしおカンラン	5144	3956	333	120	25
17	カリフラワー	西3	1.5	クラウン	426.5	2843	333	120	25
18	ハボタン	西3	2	白小町 赤小町	513本	2565本	333	120	25
19	ホウレンソウ	西3	4	パレード	423.8	1059	-	120	(15)
20	ダイコン	西2	6	冬穫大蔵大根	2786	4643	333	120	25
21	カブ	西2	5	耐病ひかり蕪	1181	2362	511	85	23
22	トウモロコシ（未熟）	ビニールハウス	1.35	アストロバンタム	256本	1896本	250	100	40
23	ジュンギク	ビニールハウス	1.35	おたふく	126.6	937	-	240	50
24	エンバク（60年）	西4 西5	25	大豊	7090	2826	散播	-	-
25	エンバク（61年）	西1・4 南3	20	大豊	14926	2985	散播	-	-
26	イタリアンライグラス（60年）	南5	15	エース	5999	3998	散播	-	-
27	イタリアンライグラス（61年）	南5	15	ワセユタカ	6820	4546	散播	-	-
28	トウモロコシ（デントコーン）	西4 西2	28.3	バイオニア	10020	3540	526	76	25
29	スーダングラス	南5	15	ハイスーダン	3300	2200	散播	-	-
30	マビキナ	西2	-	冬穫大蔵大根	323.1	-	-	-	-
31	ミズナ	試作	-	-	198	-	-	-	-

第1表 昭和61年度作物別耕種概要（B）

番号	作 目	施肥量kg / 10 a			基肥量kg / 10 a			播 種 日		定 植 日 月/日	収 穫 始 期 月/日	収 穫 終 期 月/日
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	月/日	月/日			
1	バレイショ（春作）	10.6	7.6	10.0	10.6	7.6	10.0	3/4 3/6	-	6/10	7/28	
2	バレイショ（秋作）	10.6	7.6	9.8	7.5	5.6	7.0	8/28 8/29	-	11/18	12/2	
3	カボチャ	12.3	8.8	11.4	8.4	6.0	7.8	4/8	-	6/26	8/12	
4	トウモロコシ（未熟A）	10.5	10.5	10.5	7.7	7.7	7.7	4/14 5/1 5/27	-	7/14 7/28 8/5	8/12	
5	トウモロコシ（未熟B）	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8	6/10	-	9/18	9/29	
6	トウモロコシ（ポップコーン）	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8	6/10	-	9/18	9/29	
7	トウモロコシ（ヤングコーン）	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	5/23	-	7/15	7/21	
8	カンショ	0	0	0	0	0	0	3/20	5/7 19 6/2 7/4	10/6	11/11	
9	ダイズ（枝豆A）	2.1	10.0	12.1	2.1	10.0	12.1	4/14 5/17 6/27 7/2	-	7/4 7/21	8/7	
10	ダイズ（枝豆B）	2.1	10.0	12.1	2.1	10.0	12.1	6/27	-	9/24	10/11	
11	ダイズ（枝豆C）	2.1	10.0	12.1	2.1	10.0	12.1	7/2	-	10/13	10/20	
12	ダイズ（子実黒豆）	2.1	10.1	12.1	2.1	10.0	12.1	7/2	-	10/13	10/17	
13	シソ	1.12	0.8	1.0	1.1	0.8	1.0	4/2	-	6/13	7/14	
14	アスパラガス	-	-	-	-	-	-	-	-	5/30	7/26	
15	カンラン（A早生）	15.8	9.8	14.8	8.8	6.3	8.2	7/17	8/18	10/6	11/20	
16	カンラン（B晩生）	32.6	14.8	29.7	16.4	11.7	15.2	7/25 8/4	9/3 9/16	11/21	2/18	
17	カリフラワー	18	10	16.6	14	10	12.6	8/4	9/10	11/10	12/25	
18	ハボタン	10.5	15.0	18.0	4.0	15.0	15.0	8/8 8/20	9/25	10/20	12/26	
19	ホウレンソウ	17.9	34.6	21.8	9.5	33.4	11.6	10/15	-	11/25	2/18	
20	ダイコン	10.8	7.3	12.0	4.6	5.3	5.6	9/1 9/22	-	10/20	2/18	
21	カブ	12.0	6.4	12.6	8.1	5.9	10.0	9/22	-	11/17	2/18	
22	トウモロコシ（未熟）	14.2	14.2	14.2	11.8	11.8	11.8	3/7	-	6/19	7/3	
23	シュンギク	28.0	20.0	24.0	14.0	20.0	15.0	10/13	-	11/25	2/10	
24	エンバク（60年）	7.0	7.6	7.7	1.4	0.2	1.7	1985/10/28	-	4/21	5/6	
25	エンバク（61年）	5.6	0.8	6.8	2.8	0.4	3.4	9/26 9/26 10/9	-	12/16	3/31	
26	イタリアンライグラス（60年）	4.5	4.9	4.7	3.3	4.7	3.3	1985/10/26	-	4/14 5/16	4/17 5/22	
27	イタリアンライグラス（61年）	5.6	0.8	6.8	2.8	0.4	3.4	1986/10/27	-	4/1	5/19	
28	トウモロコシ（デントコーン）	5.6	4.0	5.2	5.6	4.0	5.2	5/22 5/23	-	7/23	7/24	
29	スーダングラス	7.6	1.1	9.2	3.8	0.5	4.6	6/11	-	8/21 10/6	9/3 10/8	
30	マビキナ	-	-	-	-	-	-	-	-	9/18	11/8	
31	ミズナ	-	-	-	-	-	-	-	-	12/8	2/10	

八 浜 農 場

昭和61年度の八浜農場の運営は、前年度導入の水稲品種コガネマサリが、干拓田における栽培では、その品種特性が十分に発現されにくく、期待の増収効果が得られなかったので取止め、水稲品種をアケボノに統一した。

水稲の生育収量は、気象条件に恵まれたものの、岡山県の収量489 kg/10 aに対し、八浜農場においては395 kg/10 aと大巾な減収となった。その原因は(1)、土壌の強還元による根腐れ、

秋落ち現象(2)、湿田のため、大型水稲移植機に巾広の水田車輪を装着して、接地圧の軽減を計ったが、車輪が植付苗を踏倒すなどで欠株が多くなったが、補植が十分行えなかった。そのため平均当りの穂数の確保が不十分となったことによる。

ビール大麦の収量は縞萎縮病の多発と、春のなたね梅雨時の排水不良による湿害で減収となった。今後の土壌改良が必要である。

第1表 栽 培 面 積

作 物	栽培様式	品 種	栽培圃場及び面積(a)	計 (a)
水 稲	直播	アケボノ	1号圃場281.5号圃場64.6号圃場54	399
”	移植	”	2号圃場158.3号圃場69.4号圃場81	308
ソルガム	直播	ハイグレン ソルゴー	5号圃場60	60
エンバク	直播	ハヤテ	5号圃場70	70
ビール麦	直播	あまぎ2条	2号圃場158.3号圃場69.4号圃場81	308
カボチャ	直播	ハヤト・利休	5号圃場10	10

第2表 栽 培 概 要

作 物	栽培様式	品 種	播 種 期	施肥量 kg/10a				収 穫 期
				播種量 kg/10a	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
水 稲	直播	アケボノ	5月10日～5月17日	6	10.7	9.8	12.9	10月23日～30日
”	移植	”	5月13日	2.7	11.1	10.8	13.7	11月4日～7日
ソルガム	直播	ハイグレン ソルゴー	4月17日	4	8.6	12.3	8.6	8月25日～26日
エンバク	直播	ハヤテ	9月1日	6.6	9.8	13.3	9.8	11月17日～12月1日
ビール麦	直播	アマギ2条	S 60 11月25日～27日	16	11.6	9.3	11.6	S 61 6月3日～4日
カボチャ	直播	ハヤテ・利休	3月10日	2 dℓ	7.5	7.5	7.5	7月8日～9日

第3表 水稻防除作業内容

処 理	薬 剤 名	2号. 3号. 4号圃場移植 使用量 / 10 a	月 日	1号. 5号. 6号圃場直播 使用量 / 10 a	月 日
除 草 剤	スタム乳剤			1170 ml	5月26日
	サターン乳剤			880 ml	5月26日
	スタム乳剤			1080 ml	5月31日
	サターン乳剤			960 ml	5月31日
	スタム乳剤			810 ml	6月12日
	クサノック粒剤	3.5 kg	7月1日～2日		
	アピロサン粒剤			4.2 kg	7月2日
殺虫・殺菌剤	ダイシストン粒剤			6.5 kg	5月28日, 6月2日
	ダイバイ粒剤			3.2 kg	7月25日～26日
	パプサンサイド粉剤	3.4 kg	8月21日	3.4 kg	8月20日
	ヒノパプサンサイド粉剤	3.2 kg	9月11日	3.2 kg	9月11日
	ヒノパプサンサイド粉剤	2.9 kg	9月24日	2.9 kg	9月24日

第4表 作物別収量

作 物	品 種	収 量 kg / 10 a	備 考
水 稻	ア ケ ボ ノ	3 9 5	屑米22 kg / 10 a
ソ ル ガ ム	ハイグレンソルゴー	2 5 9 7	生草 15580 kg
エ ン バ ク	ハ ヤ テ	1 2 1 7	生草 8520 kg
ビール大麦	あ ま ぎ 2 条	2 1 8	
カボチャ	ハ ヤ ト ・ 利 休	7 2 0	

津高牧場

牧場開設から8年目の昭和61年度は、規模は縮小したままではあったが、子牛相場の好転にも助けられて、まずまずの売上げ成績を得た年であった。

年間の牛の異動状況は第1表のように、飼育頭数は85頭前後と、一時にくらべるとかなり少ない。これには、二つの理由がある。その一つは、新岡山空港との用地交換や、これに関連した埋立工事、草地統合工事などで、草地の表土を移動し、地力不十分のために草生産力が不十分で、意識的に規模を抑制していることである。いま一つの理由は、毎年の農場報告で述べているように、繁殖障害がまだ解決しておらず、繁殖牛頭数の割に子牛生産頭数が少ないことである。未経産の若牛が多いとはいいいながら、18か月以上の雌牛が40頭以上いて、年間の子牛が25頭という数字がこの間の事情を物語っている。

61年度の販売状況のうち、子牛、育成牛は第

2表のとおりである。いずれも、岡山県経済連の総合家畜市場で販売したものであるが、前年度にくらべて相場が次第に好転しており、この1年間だけでもkg当り単価の上昇がみえる。ちなみに、当牧場の販売子牛1頭平均価格は、昭和59年度22.6万円、60年度27.9万円で、61年度の32.0万円がいかに高いかがわかる。したがって、子牛の販売はわずかに9頭であるが、その割には売上げが大きかったわけである。

次に、肥育牛の販売成績は第3表のとおりで、去勢牛が9頭、雌牛が11頭である。このうち、4月に販売したW44号は肥育中に骨折事故を起こし、病畜扱いで緊急出荷したもので、10月販売のW52号は発育不良で子牛のときに販売できなかったものを短期肥育で販売したものである。3月販売の去勢牛7頭は、本号で別に報告したように72週間の長期肥育牛であるにもかかわらず、全頭が規格は「並」で、枝肉単価も短期肥育の

第1表 昭和61年度飼育牛異動状況

		雌				雄・去勢			合計	
		子牛	育成牛	繁殖牛	肥育牛	子牛	育成牛	肥育牛		
61. 4. 1 現在		11	4	47	0	12	3	8	85	
期間異動	増	生産	6	-	-	-	3	-	-	9
	振替		-	7	3	5	-	8	1	24
	減	振替	7	3	5	-	8	1	-	24
	へい死		-	-	-	-	-	-	-	0
	売却		-	-	-	-	1	6	1	8
61. 10. 1 現在		10	8	45	5	6	4	8	86	
期間異動	増	生産	6	-	-	-	10	-	-	16
	振替		-	10	2	6	-	5	6	29
	減	振替	10	2	6	-	5	6	-	29
	へい死		-	-	-	-	-	-	-	0
	売却		-	-	-	-	2	8	11	21
62. 3. 31 現在		6	16	41	0	11	1	6	81	

雌牛と大差がなかった。この点は前年度販売の去勢牛と大いに異なるところである。

61年度も繁殖成績不良の雌牛11頭を短期肥育ののちに販売した。この場合、1頭当りの体重

差が大きく、同じ短期肥育でもY19号は746kgもあるのに対し、Y105、Y109は500kg未満、Y111は400kgにも達していない。これは元々の体格が著しく異なるためで、Y19の場合は

常に 600 kg 以上を保つ大型の牛であったが、Y 105, Y 109, Y 111 はいずれも発育不良牛で、早目に見切りをつけて廃用にしたものである。したがって、個体差が非常に大きい、自給粗飼料中心で飼育されてきた雌牛を 3 か月程度の短期肥育で出荷することは、少ない現金支出で、売上げを大きくできるために、牧場運営上はプ

ラスになる所が大きい。

牧場に隣接する新岡山空港も昭和 62 年 3 月に開港され、空港関連で低下していた草地の生産力も、次第に回復の様相を見せてきた。繁殖障は依然として未解決であるが、牧場の前途に漸く明るさが見えてきたように思われる。

第 2 表 昭和 61 年度子牛、育成牛販売成績

販売年月日	耳標番号	生年月日	生後日令(日)	体重(kg)	日令体重(kg/日)	せり落価格(円)	kg 当り単価(円/kg)	母牛番号	父牛名号
61. 4. 9	R 255	60. 7. 13	270	274	1.015	310	1,131	Y 97	第 1 片山 仙守 3 第 12 東清国
	R 256	60. 7. 13	270	290	1.074	303	1,045	Y 61	
	R 258	60. 8. 3	218	241	1.105	272	1,129	Y 35	
61. 7. 8	R 259	60. 9. 28	283	300	1.060	326	1,087	Y 11	第 12 東清国 第 1 片山
	R 260	60. 10. 26	255	300	1.176	339	1,130	Y 1	
61. 9. 11	R 262	60. 12. 14	271	308	1.136	367	1,192	Y 101	第 12 東清国 仙守 3
	R 263	60. 12. 24	261	271	1.038	309	1,140	Y 69	
62. 2. 12	R 283	61. 5. 4	284	291	1.025	361	1,241	Y 36	第 1 片山 第 8 正花
	R 285	61. 5. 26	262	290	1.107	387	1,334	Y 80	

いずれも黒毛和種去勢子牛、岡山県経済連総合家畜市場(久世町)で販売

第 3 表 昭和 61 年度枝肉販売成績

と殺年月日	耳標番号	品種性別	出荷時体重(kg)	水引枝肉重量(kg)	枝肉歩留(%)	枝肉規格	枝肉単価(円/kg)	売上金額(円)	生体単価(円/kg)
61. 4. 21	W 44*	黒去	548	348.4	63.6	並	1,250	419.7	766
61. 10. 27	Y 61	黒めす	552	313.8	56.8	並	1,530	474.2	859
	Y 85		525	318.1	60.6	並	1,650	515.7	982
	Y 96		383	215.3	56.2	並	1,300	275.7	720
	Y109		495	295.5	59.7	並	1,600	466.5	942
	Y111		396	219.5	54.8	並	1,350	286.7	724
	W 52	黒去	425	243.9	57.4	並	1,471	353.9	833
62. 3. 10	W 45	黒去	650	415.7	64.0	並	1,450	596.9	918
	W 46		599	375.1	62.6	並	1,354	503.9	841
	W 47		606	376.1	62.1	並	1,500	553.8	914
	W 48		609	375.2	61.6	並	1,500	557.3	915
	W 49		650	396.4	61.0	並	1,400	550.5	847
	W 50		652	412.2	63.2	並	1,530	624.0	957
	W 51		612	372.2	60.8	並	1,510	548.5	896
62. 3. 17	Y 19	黒めす	746	450.9	60.4	並	1,300	570.5	765
	Y 34		638	377.6	59.2	並	1,300	480.8	754
	Y 84		587	351.4	59.9	並	1,550	538.0	917
	Y 94		554	336.5	60.7	並	1,300	434.6	784
	Y 97		556	330.6	59.5	並	1,475	475.7	856
	Y105		483	289.5	59.9	並	1,450	416.4	862

岡山県営食肉地方卸売市場で販売

※印は病畜扱い

本 島 農 場

本年度から亜熱帯植物研究室としての特別施設経費は示達されなくなったが、特別要求で追加予算が認められた。早生温州と10号園の甘夏はほとんど花が咲かなかった。また干ばつのため小玉であった。したがって温州ミカンは20%

の減収、甘夏ミカンは50%の減収であった。その他の新植ミカンは樹も順調に生育し、収量も増加してきた。

本島農場の生産

種 類	品 種	生産量	生産額
果 実	温州ミカン	2,337 kg	245,200 円
	甘夏ミカン	1,335	130,200
	ダイダイ	116	11,640
	八 朔	363	36,300
	伊 予 柑	325	97,500
	レ モ ン	62	24,210
	ス ダ チ	43	21,450
	そ の 他	240	62,400
切り枝	クチナシ	30 本	900
	パンパス	151	79,243
	アカシア	1,730	57,660
	モクマオウ	300	9,050
	ブラシノキ	300	16,290
	ユーカリ	250	4,077
	シキミ	200	2,000
	マサキ	300	9,502